

令和 7 年度 一般 選 抜
個別学力試験問題(前期日程)

小 論 文

(教育学部 学校教育課程Ⅰ類)

注 意

1. 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
2. 問題紙は 20 ページ、解答用紙は 7 枚、下書き用紙は 7 枚です。指示があってから確認し、7 枚すべての解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
3. 問題 **1** は必答問題です。受験生は必ず解答してください。
問題 **2** ・ **3** は選択問題です。 **2** ・ **3** のいずれかを選択し、
2 を選択した場合は解答用紙 **3** の選択欄に、 **3** を選択した場合は
解答用紙 **6** の選択欄に○印を記入の上、解答してください。解答用紙
の選択欄に○印のないもの、解答用紙 **3** と **6** の選択欄両方に○印が記
入されているものは、採点しません。
4. 答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
5. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
6. 試験終了後、問題紙・下書き用紙は、持ち帰ってください。

1

【必答問題】 以下の設問(一)・設問(二)にすべて答えなさい。

設問(一) 次の課題文を読み、以下の問1・問2に答えなさい。

課題文

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

（この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。）

（この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。）

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(尾木直樹『いじめ問題をどう克服するか』による。なお、出題にあたり本文の一部を改変した。)

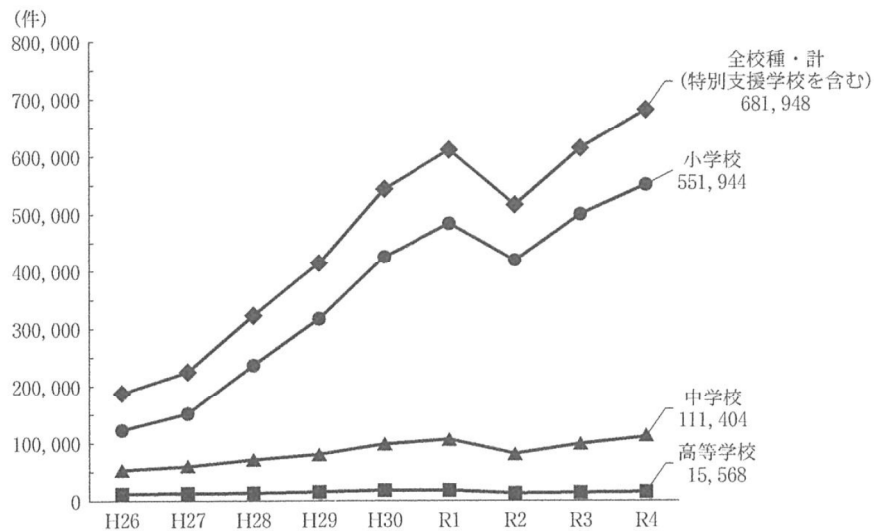
問 1 課題文中に述べられている「今日のいじめの特徴」について、200 字程度(句読点を含む)で説明しなさい。

問 2 下線部にある「いじめの深刻化」が生じる理由について、200 字程度(句読点を含む)で説明しなさい。

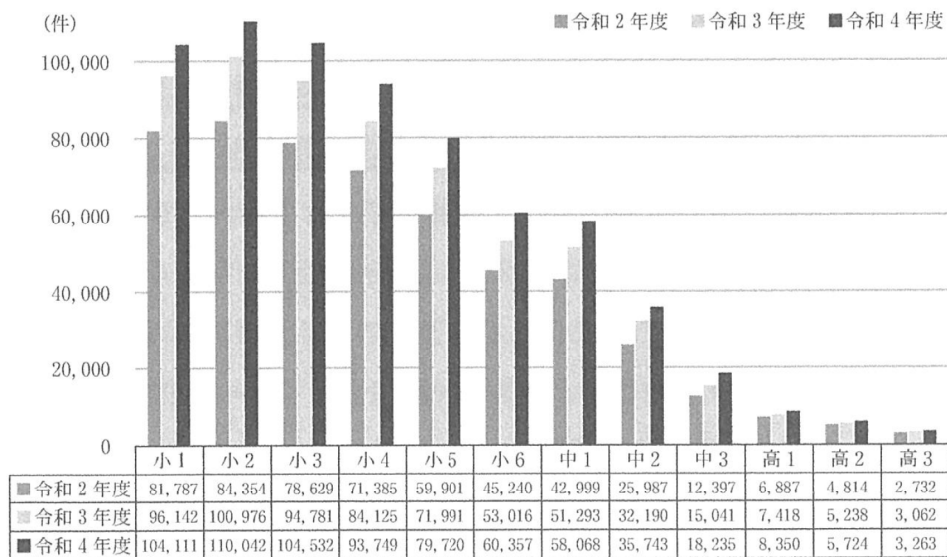
設問(二) 以下の資料1～3をみて、次の問いに答えなさい。

問い 資料1～3から読み取れる近年のいじめの傾向について、350字程度(句読点を含む)で説明しなさい。なお、資料1～3すべてに言及すること。

資料1 いじめの認知件数の推移



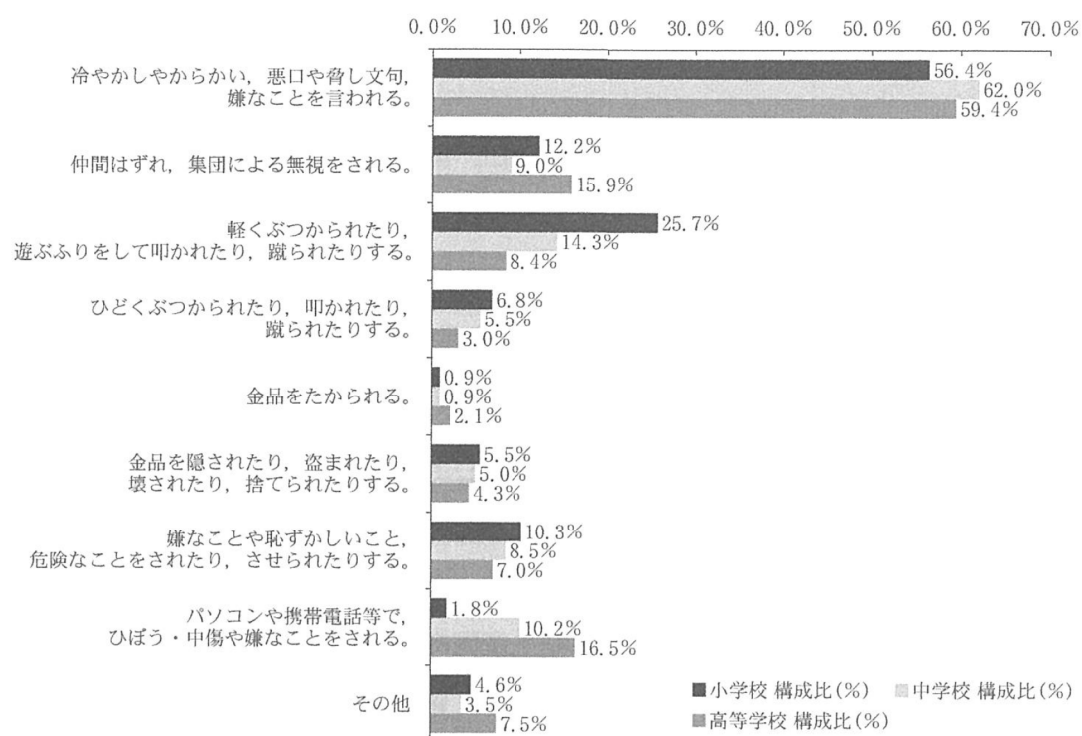
資料2 学年別いじめの認知件数の推移



※ 各学年の認知件数には、特別支援学校小学部・中学部・高等部の認知件数を含む。

(注) いじめの認知件数とは、教職員が認知できた件数を指しており、必ずしも発生件数とは一致しない。

資料3 いじめの態様別状況(令和4年度)



(注) 構成比は、各区分における認知件数に対する割合で、回答は複数回答式である。

(資料1～3とも、文部科学省「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」による。なお、出題にあたり資料の一部を改変した。)

2

【選択問題】 以下の設問A・設問Bにすべて答えなさい。

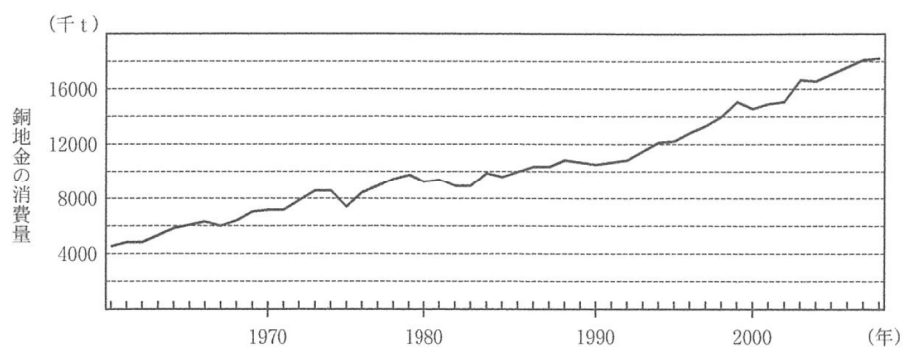
設問A 次の文章と資料1・資料2をみて、以下の問1～問3に答えなさい。

私たちの身の回りでは、鉄や銅など、多くの金属が利用されています。日本は、鉄鋼の生産に必要な鉄鉱石をすべて輸入に依存しており、輸入量のうち約60%をオーストラリア産が占めています。この鉄鉱石(赤鉄鉱)は、27億年前～24億年前に、光合成生物が放出した酸素と海に溶けていた鉄イオン(Fe^{2+})^①が結びつき、沈殿して形成されました。日本にはこのようにしてできた鉄鉱石はありませんが、花こう岩などに含まれる砂鉄(磁鉄鉱)を取り出し、古くから^②「たたら製鉄」と呼ばれる方法によって製鉄が行われてきました。

銅の生産に必要な銅鉱石に関しても、日本には多くの銅鉱山があり、江戸時代の中頃には日本は世界最大の銅生産国であったと言われています。しかし、現在日本で採掘している銅鉱山はなく、銅鉱石はすべて輸入に依存しており、世界の銅供給事情に左右されています。

次に示す資料1は、世界の銅地金消費量を示しています。銅地金とは、純度99.96%以上の銅の板状原料製品のことです。資料2は、銅の耐用年数を示しています。銅の耐用年数とは、該当年に見積もられる銅鉱石の埋蔵量を該当年の銅鉱石の生産量で割った数値として定義されるもので、該当年において採掘可能と見込まれる年数を示しています。該当年の埋蔵量は、採掘技術の進歩や新しい鉱山の発見などによっても変化します。

資料 1 世界の銅地金消費量



(環境省「平成 25 年版 環境・循環型社会・生物多様性白書」の図を一部改変。)

資料 2 銅の耐用年数

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(西山孝「資源論 メタル・石油埋蔵量の成長と枯渇」の図を一部改変。)

問 1 下線部①について、物質が酸素と結びつく化学反応のことをなんというか。

問 2 下線部②に関連して、Aさんは、アルミニウムと主に磁鉄鉱からなる砂鉄を燃焼させて単体の鉄(Fe)を取り出す方法があることを知った。磁鉄鉱の組成は Fe_3O_4 である。以下はAさんが調べた実験の方法である。

- ①砂鉄とアルミニウム粉末を混ぜ、るつぼに入れる。
- ②導火線としてマグネシウムリボン①のるつぼに差し込み、火をつけて砂鉄とアルミニウム粉末を反応させる。
- ③燃焼が収まったら、できた塊を取り出して水で冷やす。
- ④塊をハンマーでたたき、中身を取り出す。

この実験において、砂鉄とアルミニウム粉末を混ぜるのはなぜか。50字程度(句読点を含む)で説明しなさい。

問 3 あなたが考える銅の利用の望ましい将来について、資料1・資料2の両方に言及した上で200字程度(句読点を含む)で述べなさい。

設問 B 次の文書は、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律
施行令(平成十八年政令第三百七十九号)」(以下、バリアフリー法施行令と
略す)の一部です。これを読んで以下の問 1～問 3 に答えなさい。

(階段に代わり、又はこれに併設する傾斜路)

第十三条 不特定かつ多数の者が利用し、又は主として高齢者、障害者等が
利用する傾斜路(階段に代わり、又はこれに併設するものに限る。)は、次に
掲げるものでなければならない。

一 勾配が十二分の一を超え、又は高さが十六センチメートルを超える傾斜
がある部分には、手すりを設けること。

二 表面は、粗面とし、又は滑りにくい材料で仕上げること。

三 その前後の廊下等との色の明度、色相又は彩度の差が大きいことにより
その存在を容易に識別できるものとする。

四 傾斜がある部分の上端に近接する踊場の部分(不特定かつ多数の者が利
用し、又は主として視覚障害者が利用するものに限る。)には、視覚障害者
に対し警告を行うために、点状ブロック等を敷設すること。ただし、視覚
障害者の利用上支障がないものとして国土交通大臣が定める場合は、この
限りでない。

(注) 明度——色の明るさの度合いのこと。

色相——赤、橙、黄、緑、青のような色みの違いのこと。

彩度——鮮やかさや地味さの度合いのこと。

前ページに示した文書の下線部に記載されている勾配は、下の図1のように、水平距離に対する高低差を示しており、

$$\text{勾配} = \frac{\text{高さ}}{\text{水平距離}}$$

で求めることができます。

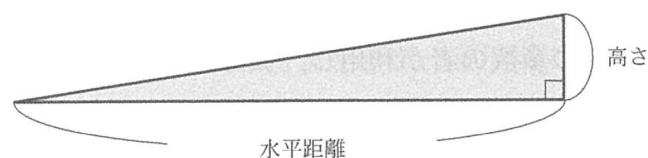


図1

問1 下の図2のような不特定かつ多数の者が利用する傾斜路が階段に併設されています。バリアフリー法施行令第十三条によれば、この傾斜路に手すりを設ける必要はありますか。解答欄の必要あり・必要なしのいずれかを選び、○で囲みなさい。また、そのように判断した理由を解答欄に収まるように書きなさい。

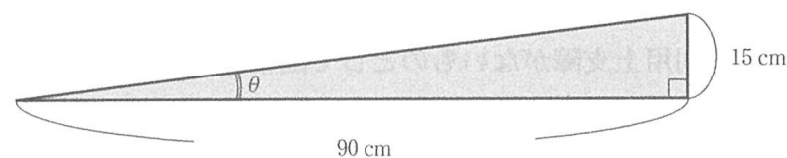


図2

問2 問1の傾斜路のθはおよそ何度ですか。角θは、小数第一位を切り捨て、整数で答えなさい。解答欄には、解答に至る過程も式および文で書きなさい。なお、必要に応じて、三角比を示した表を用いなさい。

三角比の表

角	正弦(sin)	余弦(cos)	正接(tan)
0°	0.0000	1.0000	0.0000
1°	0.0175	0.9998	0.0175
2°	0.0349	0.9994	0.0349
3°	0.0523	0.9986	0.0524
4°	0.0698	0.9976	0.0699
5°	0.0872	0.9962	0.0875
6°	0.1045	0.9945	0.1051
7°	0.1219	0.9925	0.1228
8°	0.1392	0.9903	0.1405
9°	0.1564	0.9877	0.1584
10°	0.1736	0.9848	0.1763
11°	0.1908	0.9816	0.1944
12°	0.2079	0.9781	0.2126
13°	0.2250	0.9744	0.2309
14°	0.2419	0.9703	0.2493
15°	0.2588	0.9659	0.2679
16°	0.2756	0.9613	0.2867
17°	0.2924	0.9563	0.3057
18°	0.3090	0.9511	0.3249
19°	0.3256	0.9455	0.3443
20°	0.3420	0.9397	0.3640
21°	0.3584	0.9336	0.3839
22°	0.3746	0.9272	0.4040
23°	0.3907	0.9205	0.4245
24°	0.4067	0.9135	0.4452
25°	0.4226	0.9063	0.4663
26°	0.4384	0.8988	0.4877
27°	0.4540	0.8910	0.5095
28°	0.4695	0.8829	0.5317
29°	0.4848	0.8746	0.5543
30°	0.5000	0.8660	0.5774
31°	0.5150	0.8572	0.6009
32°	0.5299	0.8480	0.6249
33°	0.5446	0.8387	0.6494
34°	0.5592	0.8290	0.6745
35°	0.5736	0.8192	0.7002
36°	0.5878	0.8090	0.7265
37°	0.6018	0.7986	0.7536
38°	0.6157	0.7880	0.7813
39°	0.6293	0.7771	0.8098
40°	0.6428	0.7660	0.8391
41°	0.6561	0.7547	0.8693
42°	0.6691	0.7431	0.9004
43°	0.6820	0.7314	0.9325
44°	0.6947	0.7193	0.9657
45°	0.7071	0.7071	1.0000

角	正弦(sin)	余弦(cos)	正接(tan)
45°	0.7071	0.7071	1.0000
46°	0.7193	0.6947	1.0355
47°	0.7314	0.6820	1.0724
48°	0.7431	0.6691	1.1106
49°	0.7547	0.6561	1.1504
50°	0.7660	0.6428	1.1918
51°	0.7771	0.6293	1.2349
52°	0.7880	0.6157	1.2799
53°	0.7986	0.6018	1.3270
54°	0.8090	0.5878	1.3764
55°	0.8192	0.5736	1.4281
56°	0.8290	0.5592	1.4826
57°	0.8387	0.5446	1.5399
58°	0.8480	0.5299	1.6003
59°	0.8572	0.5150	1.6643
60°	0.8660	0.5000	1.7321
61°	0.8746	0.4848	1.8040
62°	0.8829	0.4695	1.8807
63°	0.8910	0.4540	1.9626
64°	0.8988	0.4384	2.0503
65°	0.9063	0.4226	2.1445
66°	0.9135	0.4067	2.2460
67°	0.9205	0.3907	2.3559
68°	0.9272	0.3746	2.4751
69°	0.9336	0.3584	2.6051
70°	0.9397	0.3420	2.7475
71°	0.9455	0.3256	2.9042
72°	0.9511	0.3090	3.0777
73°	0.9563	0.2924	3.2709
74°	0.9613	0.2756	3.4874
75°	0.9659	0.2588	3.7321
76°	0.9703	0.2419	4.0108
77°	0.9744	0.2250	4.3315
78°	0.9781	0.2079	4.7046
79°	0.9816	0.1908	5.1446
80°	0.9848	0.1736	5.6713
81°	0.9877	0.1564	6.3138
82°	0.9903	0.1392	7.1154
83°	0.9925	0.1219	8.1443
84°	0.9945	0.1045	9.5144
85°	0.9962	0.0872	11.4301
86°	0.9976	0.0698	14.3007
87°	0.9986	0.0523	19.0811
88°	0.9994	0.0349	28.6363
89°	0.9998	0.0175	57.2900
90°	1.0000	0.0000	—

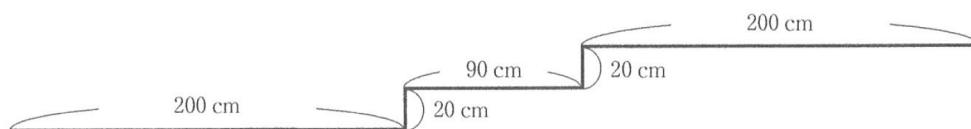
問 3 高齢者がよく利用する階段があります。図 3 は、この階段を、それぞれ真横と、真上から見た図です。あなたは、バリアフリー法施行令第十三条に基づいて、この階段に代わる傾斜路の設置案を提案します。設置する傾斜路の水平距離は 490 cm 以内とします。このとき、以下の(1)、(2)に答えなさい。

(1) 解答欄に、あなたが提案する傾斜路のイメージ図をかきなさい。イメージ図はどのように表現しても良いが、その際、以下の①～④に留意すること。なお、定規等は用いず、フリーハンドでかくこと。

- ① あなたが提案する傾斜路がわかるようにすること。
- ② 傾斜路に付帯して設置したい設備等をイメージ図に入れること。
- ③ ②の設備等が、何を表しているかを簡潔に説明すること。
- ④ 指定すべき寸法は明記すること。

(2) (1)のように提案した理由を 250 字以内(句読点を含む)で説明しなさい。
説明の中に、あなたが提案した傾斜路の勾配の値も含めること。

(真横から見た図)



(真上から見た図)

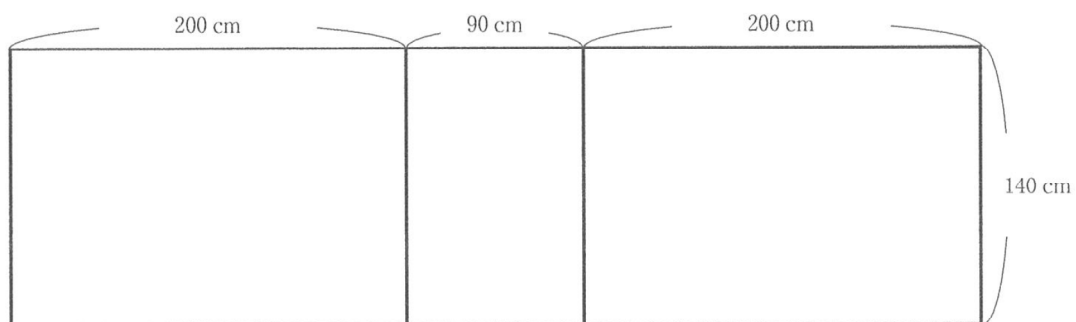


図 3

3

【選択問題】 次の三つの文章を読み、以下の問1～問3に答えなさい。

ア

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(出典：石田英敬『大人のためのメディア論講義』による。なお、出題にあたり本文の一部を改変した。)

(注) コンピュータで、ある文書(ウェブページ)の一部から関連する他の文書を参照したり、その文書に移動したりすることのできるしくみ。

イ

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(出典：山口真一『ソーシャルメディア解体全書』による。なお、出題にあたり本文の一部を改変した。)

- (注)
- 1 ウェブページの特定のページが開かれた回数のこと。
 - 2 インターネットを利用して誰でも手軽に情報を発信し、相互のやりとりができる双方向のメディアのこと。SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)のほか、動画共有サービスや電子掲示板などが含まれる。
 - 3 ミャンマー西部に住むイスラーム系少数民族。
 - 4 政治的な意図のもとに行われる情報の流布のこと。

ウ

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(出典：木村玲欧「能登半島地震でも巻き起こるデマ 過去の災害から見える傾向」による。なお、出題にあたり本文の一部を改変した。)

問 1 文章 ア における下線部「起きて何かに注意を払っている時間をめぐっての競争そのものが、産業の原理になっていく」ことについて、それはなぜか、この文章 ア の内容を踏まえて 150 字程度(句読点を含む)で説明しなさい。

問 2 文章 イ にて述べられている、偽情報としてのフェイクニュースが作成される経済的動機について、文章 ア の内容と関連づけながら、300 字程度(句読点を含む)で説明しなさい。

問 3 文章 ア，イ，ウ のいずれか二つ以上の内容を踏まえながら、ソーシャルメディアを含むインターネット上の情報について、その特徴をいかした活用のしかたを 300 字程度(句読点を含む)で論じなさい。